

豊かな自然にひと・もの・まちが輝く健康都市 網走

市議会だより

第118号
(令和7年2月)

発行／網走市議会

編集／網走市議会広報委員会



※50音順に議員を紹介していきます

網走市議会 議場傍聴席にて撮影

古都 宣裕 議員(42) 3期
会派：無会派 委員会：文教民生委員会
広報委員会

松浦 敏司 議員(71) 7期
会派：日本共産党議員団 委員会：総務経済委員会
議会運営委員会

【もくじ】

定例会トピックス	2～3 P
議決結果一覧	3 P
一般質問ほか	4～6 P
視察報告	7 P
議会報告会	8 P

○みなさまの傍聴をお待ちしております

次の定例会は 新庁舎で 3月3日(月) から開催予定です。

○議会だよりを音声でお届け

ボランティア団体「声の図書館そよかぜ」は、音訳したCDを作成し無償で配付しております。ご希望の方は、網走市議会事務局までご連絡ください。

■問い合わせ：網走市議会事務局 TEL 44-3326

UD FONT

本紙は、見やすさや読みやすさを配慮したユニバーサルフォントを採用しています。

網走市議会では、議会だよりについての
みなさまからのご意見を随時募集しています。



12月定例会トピックス①

第4回定例会概要（12月3日～12月16日）

第4回定例会は12月3日から12日の予定でしたが、追加議案の審議に伴い16日まで会期を延長して行われました。

はじめに、初日の12月3日に令和6年度の補正予算として一般会計ほか2つの特別会計の予算が上程されました。

その他、網走市宿泊税条例の制定、空家対策協議会を附属機関とするための関係条例等の一部改正、公の施設の区域外設置及び利用に関する協議（大空町との水道施設の共同化）について、審査会共同設置規約の変更2件、先に行われた衆議院選挙に伴う予算の専決処分報告と請願2件が上程されました。

補正予算案は、それぞれ各常任委員会に付託され12月5日から6日にかけて付託された委員会では慎重に審査されました。（下表参照）

議案第8号について
反対討論する村椿・古都議員



各委員会では、大空町に広域ごみ処理施設を新設することに關する請願、選択的夫婦別性制度の法制化を早期に求める意見書提出要請外2件が継続審査となり、新型コロナウイルス感染症に対する経済的な負担軽減を求める意見書は審議未了で廃案となりました。

本会議では、村椿議員（日本共産党議員団）から、宿泊税は、スポーツ合宿などを行う大学生等や

市民も対象となること、物価高騰により厳しい生活が強いられる中、到底市民の納得が得られないとして反対。

古都議員（無会派）からは、徴収する宿泊事業者の負担が大きく、北海道が徴収額から自治体に戻せば良く、現時点での宿泊税条例制定については反対と2名の反対討論がありました。

立崎議員（研政会）からは賛成討論があり、起立採決の結果、原案可決されました。

12月10日からは、10名の議員による一般質問が行われました。

（4～6P参照）

議案第8号について
賛成討論する立崎議員



令和6年第4回定例会一般会計補正予算の主な概要

区分	補正概要	金額
総務 経済	公用車両購入費（ワゴン車、EV車） （財源の一部に寄附金を活用）	1,820万円
	農業者サポート事業 （申請者の増加による事業費の追加）	380万円
	住環境改善補助金 （申請者の増加による事業費の追加）	400万円
	消防組合負担金 （新消防庁舎の基本設計）	903万円
文教 民生	暖房用燃料等価格対策緊急事業 （低所得世帯への助成 1世帯1万円）	4,046万円
	網走監獄博物館耐震対策補助金 （施設の耐震対策に対する補助）	590万円
追加補正分		
総務 経済	職員等人件費の補正 （給与・手当の増額分）	8,335万円
	消防職員人件費の負担金 （給与・手当の増額分）	4,519万円
	議員手当の補正 （期末手当の増額分）	68万円
文教 民生	市内整形外科医療体制の確保 （整形外科医療体制確保のための委託料）	504万円
	破碎・リサイクル施設及び最終処分場の委託費 （債務負担行為の設定 R7～R9年度分）	6億9,425万円

※ 債務負担行為とは？・・・次年度以降の支出（＝債務）に対して負担することを約束しておくこと

12月定例会トピックス②

追加議案の審査について

12月12日には、5件の追加議案が提出されました。

一般会計補正予算として、市職員の賃金の増額分8335万円、議員報酬の期末手当増額分68万円、消防組合負担金（賃金増額分）4519万円、整形外科医療体制確保のための地域医療対策事業として504万円、職員等の給与条例の改正が上程されました。

債務負担行為として、破碎・リサイクル施設及び最終処分場維持管理業務委託が提出されました。本会議では、松浦議員（日本共産党議員団）から債務負担行為に関する大綱質疑が行われました。議案第12号の債務負担行為については委託期間を1年から3年に、選定方法を一般競争入札から公募型プロポーザル方式に変更するとして、6億9425万円を債務負担するものです。同案は所管する文教民生委員会に同日付託されましたが審査が終了せず、会期が延長となった。16日に同案員団から債務負担行為を



議案第12号(修正案)について賛成討論する栗田議員



議案第12号(修正案)について反対討論する石垣議員

削除する修正案が提出されましたが、原案大方の賛成で否決となり、その後の本会議で、あらためて同修正案が提出されました。

その後、原案並びに修正案について各議員より賛成・反対の討論が行われ、古都議員（無党派）からプロポーザルで減容化を最大限に発揮するためなら、アイディアを広く募集すべき。失敗のリスクが高く認められない。給与条例の改正は、将来的な交付税の減少も進み歳入不足を認めている中、賃上げをするのは不適当と反対討論がありました。起立採決の結果、原案可決されました。



追加議案(原案)について反対討論する古都議員と松浦議員(左から)
※賛否の詳細は、下表参照

定例会議決結果一覧

第4回定例会の議決結果について（12月3日～12月16日）

議案と議決結果	議決結果														
	民主市民ネット	山田庫司郎	研政会	立崎聡一	古田純也	澤谷淳子	永本浩子	松浦敏司	村椿敏章	小田部照	栗田政男	石垣直樹	里見哲也	古都宣裕	
(○:賛成 ×:反対) ※議長は、議決に加わりません。															
○ 議員別議案賛否一覧表（賛否の分かれた議案）															
議案第 8 号 網走市宿泊税条例制定について	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	
議案第12号 令和6年度網走市一般関係補正予算（修正案）	×	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	○	
	○	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	
議案第13号 令和6年度網走市介護保険特別会計補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	
議案第14号 令和6年度網走市後期高齢者医療特別会計補正予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	
議案第15号 網走市職員給与と条例等の一部を改正する条例制定について	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	
○ 全議員が可決・承認した議案															
議案第 1 号 令和6年度網走市一般会計補正予算	議案第10号 網走市外3町障害支援区分認定審査会共同設置規約の変更について														
議案第 2 号 令和6年度網走市国民健康保険特別会計補正予算															
議案第 3 号 令和6年度網走市後期高齢者医療特別会計補正予算	議案第11号 公の施設の区域外設置及び利用に関する協議について														
議案第 4 号 網走市附属機関条例及び報酬職員給与と条例の一部を改正する条例制定について	議案第16号 網走市固定資産評価審査委員会委員の選任について														
議案第 5 号 網走市保健センター条例の一部を改正する条例制定について	報告第 1 号 令和6年度網走市一般会計補正予算に係る専決処分の報告について														
議案第 6 号 網走市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	意見書案第1号 「核兵器禁止条約締結国会議」へのオブザーバー参加を求める意見書提出について														
議案第 7 号 網走市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の一部を改正する条例制定について	意見書案第2号 高等教育の学費軽減・奨学金返済の負担軽減を求める意見書提出について														
議案第 9 号 網走市外3町介護認定審査会共同設置規約の変更について	請願第16号 アプトフォーの活性化のために、フリースペースの設置を求める請願														



まち中「中央商店街界限」 活性化について

希 政 会 里 見 哲 也



問) まち中は、都市機能誘導構想や網走かわまちづくりの取組、また、市役所庁舎の移転や高校生からの請願等、エリアとして注目されるが、空き店舗も目立つ。今年度の新規開業支援の状況はどうか。

答) 支援内容の統合やエリア等拡充の効果もあり、非常に問い合わせが多く、許可件数も同時期比較で多い状況。

問) まち中にかつての集客力のある大型店舗等の出店情報は収集しているか。

答) 今のところ、進出の情報はないが、商業に限らず人が集まる取組が必要であり、情報収集・動向把握に努める。

問) 市役所移転等の効果で新たな人流が生まれる可能性があり、支援の充実も期待する。

答) 同エリアは歴史的にも市の顔・中心的な位置づけであり、人流や需要ニーズも注視しながら、支援のあり方の見直しや賑わいづくりに取り組んで行く。

「つながる」まちづくり、外国 人技能実習生等と住民の関係 構築、防災対策に女性活躍を

民主市民ネット 深津 晴江



問) 単身世帯の増加等、つながりが少なく孤独・孤立を感じている。高校生から請願書提出もあり多世代が集う場や機会の創出を。

答) 関係性の貧困は命に関わる問題と認識。ニーズ把握をし、多様なつながりの場について、既存の仕組みの活用を含めて考えていく。

問) 今春より市営住宅の目的外使用が開始。窓口の一本化など外国人技能実習生等と市民がスムーズに共存できる方策を進めるべき。

答) 地域住民等とのコミュニケーションを図ることは重要。監理団体や受入企業の意向を聞き、地元住民の要望を把握し対応していく。

問) 防災対策に性差への十分な配慮が重要。市職員の女性防災士の育成を計画すべき。

答) 現在の市職員防災士は男性6名。女性の視点や活躍は重要。女性職員の防災士の認証取得に向けて取り組んでいく。

軟骨伝導イヤホンについて

公明クラブ 澤谷 淳子



問) 加齢性難聴の方に集音器付き軟骨伝導イヤホンが製品化され、市役所や銀行などに設置するところが増えている。医療機器である補聴器は高額であるが、イヤホンは安価。とはいえ存在を知らない方も多く、普及はこれからと考えるが、新庁舎へ引っ越しのタイミングで良いので、市役所窓口を設置してはどうか。

答) 全国の公共機関で導入が進んでいることは承知をしている。しかしながら、一部の調査結果になるかもしれないが、いわゆる加齢性難聴の方には十分な効果を感じられない場合もあるとされていることから、現時点で窓口への設置は考えていない。しかし、すでに先行して導入している自治体もあるので、そこでの活用の実態等について調査をしていく。

空き家対策について

研 政 会 古 田 純 也



問) 空き家の件数は。

答) 11月末現在で、59件で、そのまま放置すれば倒壊等放置することが不適切である状態にあると認められる特定空き家が14件。そのまま放置すれば特定空き家等となる管理不全空き家は45件となっている。

問) 空き家の増加推移は。

答) 平成25年度、住宅総数18,830戸のうち空き家が2,290戸、割合にして12.2%、令和5年度、19,140戸のうち空き家が3,260戸で17%と空き家比率は上昇している。

問) 空き家をオフィスやカフェ、シェアハウスなどリノベーションや転用について。

答) 起業・事業展開等・支援事業補助金により支援している。引き続き様々な機会を通じて事業の周知を図り、積極的な取組がなされるよう努めていく。



**RSウイルスワクチンの助成、
認知症の行方不明者対策、
イベントホームステイについて**

公明クラブ 永本 浩子



問) 高齢者の肺炎予防のためのRSウイルスワクチンは2万6千円前後、是非半額助成を。

答) 国や他自治体の状況を見て研究したい。

問) 市内の行方不明者の推移と状況は。

答) H31からは14件。12名は発見されたが1名は死亡、1名がまだ発見されていない。

問) 網走にも検索ネットワークがあるが登録者が増えていない。バスや病院待合室にポスター掲示、寿大学での呼びかけ等周知が必要。

答) お示しの手法も参考に周知に努めていく。

問) ヘルプカード、GPS端末、見守りキーホルダー、「爪Qシール」等具体的な対策を。

答) 活用方法等を考えていきたい。

問) 網走マラソンの宿泊施設の不足状況は。

答) 市外からの出走者は2437名。北見や斜里等の市外宿泊者は少なくとも250名以上。

問) 民泊やイベントホームステイの推進を。

答) ランナー同士の交流機会の創出にも繋がる取組。先進事例を研究していきたい。

**公益通報制度・高齢者が
最後まで暮らせる体制**

無会派 古都 宣裕



問) 通報事案を発見したがやり方が不明では形式的な窓口設置であり、運用体制が整っていると言いがたい。周知はどうなっているか。

答) 指摘の通り毎年度周知しているわけでは無いので、今後は職員研修など職員の周知について努めていく。

問) 高齢者本人が最初の行政との繋がりに忌避感を持っていて、まだ支援や介護になっていないという感情が優先されてなかなか難しい。元気なうちに、最初の支援が必要になった早い段階で、支援で改善になる場合もあるなど、ハードルを下げる理解が大切と思うがどうか。

答) 一定程度支援が必要な状態になるまで相談をしていないということはあると思う。基本的にまず地域と繋がり、合わせて支援が必要な状況になくても包括支援センターは相談を受けており、もし仮に支援が必要な状況や、なる前でもすぐに相談できるというような関係を事前に作っておくことが重要。

**ゼロカーボンの取組・
高齢者の社会参加**

民主市民ネット 金兵 智則



問) 「ゼロカーボンシティ宣言」表明後の取組の成果と今後の取組の方向性は。

答) 再生可能エネルギー施設の誘致や道路照明等のLED化等の省エネ対策、住環境改善に対する補助、ごみの減量化等、市民が取組める温室効果ガス削減に取り組んできた。今後も再生可能エネルギーの利用促進、省エネ活動に取り組む市民・事業者への助成制度の啓発活動により取組を進める。

問) 公共交通料金等の値上げが進む中、高齢者の社会参加を目的に行われている高齢者生活総合支援事業の助成券6千円を増額すべきと考えるが見解を。

答) 公共料金・家事援助等の値上げは、本事業の対象となる高齢者の生活に影響を与えていると承知しているが、現時点では助成額の増額は考えていない。国による財源措置に注視していき、低所得者への支援策全体の中で検討していく。

部活動の地域移行について

同志会 小田部 照



問) 近年多くの部活動が、休部、廃部となり子供達に通う学校に本来希望する部活動がない状況が増えてるが現状は。

答) 8部活が休部、廃部となり4部活が他校との合同チームで活動している。

問) 地域移行へ向け保護者の負担軽減、少年団や地域クラブへの積極的な支援が必要。活動環境の支援として学校施設、総合体育館、ドーム、コミセン等の公共施設の利用料を無償化とすべき(小中高生の利用)。

答) 負担軽減に向け検討する。

問) 北見市、美幌町は既に拠点校方式を取り入れ令和8年には学校部活動を廃止し、地域移行へとスピード感をもった方針を示しているが、当市の方針は。

答) 令和7年度中に部活動地域移行にかかる方向感・方針を示す。先行して地域移行できるものがあれば、できるところから取り掛かりたい。



除雪事業について 市営住宅について 地域医療体制について

日本共産党議員団 村椿 敏章



問)除雪アンケートの回答件数と内容は。

答)7件で道路、施設、間口除雪などの意向。

問)高齢者除雪申請は電話や郵送で可能か。

答)電話で相談していただければ、出向いて手続きもできる。申請用紙を送付し、返送することも可能である。

問)市営住宅のお風呂が高くて危険だ。改善をすべきでは。

答)スノコで高さ調節や手すりの設置などの対応策はある。まず、ご相談を。

問)厚生病院の整形外科の診療縮小に市民は不安だ。整形外科は無くなるのか。

答)廃止する考えはないと承知している。診療体制の確保は市民の安心、安全な生活を守るうえで重要。

問)医療報酬が下げられ、物価高騰で経営が大変だ。実態を調査すべきでは。

答)今年10月に斜里網走地域医療連絡会議ができた。情報や意見の交換をしている。

中間処理施設建設が白紙になった責任は誰 一度立止まって熟慮を

日本共産党議員団 松浦 敏司



問)ごみの中間処理施設建設予定地は、1市5町の協議会で白紙になった。9月議会で1億1千万円の補正予算の処理について伺う。

答)建設予定地が再検討することになったので、減額補正の手続きを行う。

問)中間処理施設建設に向けて1億5千万円ものお金をつぎ込んできたが、誰が責任を負うのか、どこが支払うのか。

答)事業を進めてきた費用は1市5町が必要な費用負担をしてきた。

問)1億5千万円もつぎ込んできたが中断した。この責任は、協議会の会長である水谷市長にあると思うが見解を。

答)広域は、1市5町で進めており関連予算も各議会でも措置されてきている。

問)協議会の事務局は今後どうなるのか。

答)1市5町での体制は、そのままである。

網走桂陽高生が請願書を提出しました

第4回定例会で審査した請願第16号『アプトフォーの活性化のためにフリースペースの設置を求める請願』について、請願者である網走桂陽高校の3年生が令和6年11月18日に平賀議長に請願書を提出しました。

12月5日の総務経済委員会では、請願者の1人である根本真希さんが請願について議場で説明を行いました。

審査の結果、委員全員の一致で採択され、その後の本会議で可決されました。網走市議会への市内高校生による請願は初めてとなります。



平賀議長に請願書を手渡しする桂陽高生



市議会議場で、請願について説明をする3年生の根本真希さん

常任委員会視察報告

総務経済委員会秋季視察報告

委員長 井戸 達也

委員会所管施設視察と 意見交換

総務経済委員会は委員8名他4名の計12名で10月16日に漁業、農業、下水道分野の市内施設を視察いたしました。

最初に視察させていただいた網走漁業協同組合市場では、当日水揚げされた多くの魚を買受人が次々と競り落とす活気に満ちた様子を見せていただきましたが、水揚げされる様々な魚種についての説明を受けました。

2カ所目の視察先である網走市麦類乾燥調製貯蔵施設は、平成13年より建設が開始され、合計56基のサイロを持ち、令和4年までに6期にわたる建設を経て、現在では麦類の安定した品質と数量を維持できる国内最大級の施設となっています。

3カ所目の網走港にある網走市小麦集出荷施設では20tトレーラーから運び込まれた小麦がサイロへと送りこまれ、昇降機から金属除去機、出荷計量器機を通り陸送

出荷と船積出荷へと分けて出荷され、大量輸送が可能となったとの説明を受けました。

4カ所目、昭和52年に運転開始となった網走浄化センターでは1日約2万2千立方メートルの汚水処理し、各家庭等から出た汚水が市内4カ所にあるポンプ場と沈砂池を経由して送られてくる施設です。ここで処理された汚泥は完熟堆肥として、水は道路清掃や散水、管渠清掃などに使われている等、これら汚水処理の全工程について説明を受けました。



網走市麦類乾燥調製貯蔵施設の視察状況

文教民生委員会行政視察報告

委員長 永本 浩子

空知地区ごみ処理施設 視察と意見交換

文教民生委員会は、10月23、24日、滝川市の中空知衛生施設組合「リサイクルリオン」と歌志内市の中・北空知廃棄物処理広域連合「エネクリーン」を視察しました。

当市では現在近隣5町と連携して広域での廃棄物中間処理施設の建設に向けて取組を進めており、焼却とメタンガス発酵を組み合わせた「メタンコンバインド」が検討されていますが、道内ではまだ実施例がないため、「メタンガス発酵」のリサイクルリオンと「広域焼却」のエネクリーンの2施設を視察。

メタン発酵では、冬期間でもきほど問題は無いことを確認できましたが、分別の徹底の必要性、人口減少による生ごみの減少で3槽のうち2槽しか稼働していない等の課題も見えました。広域焼却では、「買って済ませる」生活スタイルの変化と過剰梱包で生ごみほど可燃ごみの



中・北空知地区廃棄物処理広域連合職員から説明を受ける様子

量は減っていないことや環境への影響も法定基準よりも低い自主管理基準を設定したことで住民の理解を得られた等の説明を受けました。

今回の視察で学んだことを生かし、「メタンコンバインド」の妥当性や将来を見越した施設の規模や建設費用、ランニングコストもよく考慮していくことが大切だと感じました。

市民の声を市政に反映します

市民向け議会カフェ

議会運営委員会委員長 金兵 智則



初開催

今年度の市民向け議会報告会・意見交換会については、幅広い年代の市民の皆様からお話を聞きたいとの意見があったことから、これまでのように開催場所に来ていただくのではなく、多くの市民の皆様が集まる場所へこちらから出向いていこうという提案があったため、10月20日に南コミュニティセンターで行われた『みんなの生活展』に出席し、議員と一緒に、お茶



を飲みながら気軽に日頃の悩み事や市政への要望を相談できる『議会カフェ』を開催しました。当日は限られた時間の中、約40名の市民の皆様とお話することができ、除雪に関する事など多くのご意見等を頂戴いたしました。今後も議会を身近に感じていただき、市民の皆様のお声を市政に反映できるように様々な取組を行ってまいります。

高校生との意見交換会

議会運営委員会副委員長 古田 純也



網走南ヶ丘高校での意見交換会の様子

今年度1回目となる市内高校での意見交換会は、11月11日に網走南ヶ丘高等学校で2年生156名を対象に開催しました。（同校では4年ぶりの開催）前半の議会報告は、『市議会ってなあに？』を題として各議員が分担して、生徒に分かりやすく議会・議員活動について解説しました。後半は、議員と生徒が14班に分かれ『選挙に行こう』をテーマに

網走南ヶ丘高校での意見交換会

ワークショップを行いました。生徒からは、Instagramなどを活用し、若者の投票率を上げるなど活発な意見があり、とても有意義な意見交換会でした。

網走桂陽高校での意見交換会

2回目の意見交換会は、12月19日に網走桂陽高等学校で開催しました。

3年生117名と議員15名での意見交換会は、前半が生徒側から3年間の学校生活の中における課題学習で取り組まれてきた成果発表。取組の中で見えてきた網走市の現状に対しての市への提言を聞かせていただきました。後半は網走のまちづくりや生徒が日頃感じている網走に対しての悩み事などについて、



網走桂陽高校での意見交換会の様子

議員1名と生徒数名で作る14グループに分かれワークショップを行いました。どのグループも積極的に意見交換が進み、議員自身も大変多くの気づきやまちづくり案を高校生と共有する事ができました。引き続き、主権者教育の一環として、高校生・大学生などの未来ある若者の方との意見交換会を実施していきます。

議会報告会の結果については 下記のQRコードから詳しくご覧になれます。

